

テスト名	TOEIC (Test of English for International communication)	
1. 運営事業団体	国際ビジネスコミュニケーション協会	
2. テスト作成母体	ETS (Educational Testing Service)	
3. 主たる受験対象者	年齢層に関係なく、TOEICを受験する準備段階や基礎的な英語能力を確かめたいという受験者	
4. 目的/構成概念	<p>・教育機関や学生・一般人からの、TOEICよりも「易しくて」「日常的で身近な」「時間の短い」初級学習者向けのテストを求めるニーズを受け、スコア表示による評価方法、信頼性の高いモノサシ機能など、TOEICの特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテスト。</p> <p>・将来、大学やビジネスで必要とされる英語能力を高めていく過程で、学習初期段階のレベルチェック。</p>	
5. テストの性質/項目数	<p style="text-align: center;">Listening</p> <p>・Part1: 写真描写問題 (Photographs) 15問 1枚の写真について4つの短い説明文が1度だけ放送される。説明文は印刷されていない。4つのうち、写真を最も的確に描写しているものを選び解答用紙にマークする。</p> <p>・Part2: 応答問題 (Question-Response) 20問 1つの質問とそれに対する3つの答えがそれぞれ1度だけ放送される。印刷はされていない。質問に対して最もふさわしい答えを選び解答用紙にマークする。</p> <p>・Part3: 会話問題 (Short Conversations and Short Talks) 15問 2人の人物による会話や、説明文などが1度だけ放送される。印刷はされていない。会話や説明文などを聞き、問題用紙に印刷された質問と解答を読み、4つの答えの中から最も適当なものを選び解答用紙にマークする。</p>	<p style="text-align: center;">Reading</p> <p>・Part4: 文法・語彙問題 (Incomplete Sentences) 30問 不完全な文章を完成させるために、4つの答えの中から最も適当なものを選び解答用紙にマークする。</p> <p>・Part5: 読解問題 (Reading Comprehension) 20問 いろいろな文章が印刷されている。質問を読み、4つの答えの中から最も適当なものを選び解答用紙にマークする。各文章には質問が数問ずつある。</p>
6. 採点基準	正答数	
7. 得点	テスト結果は合格・不合格ではなく、リスニング10～90点、リーディング10～90点、トータル20～180点のスコアで2点刻み。このスコアは正答数そのままの素点 (Raw Score) ではなく、スコアの同一化 (Equating) と呼ばれる統計処理によって算出された換算点 (Scaled Score)。	
8. 評価・Feedback	<p>・公式認定証の発行 リスニング、リーディング、トータルスコアの他に下記の5つのカテゴリーごとに3段階のサブスコアが提示される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Functions (言葉のはたらき): どのような目的と意図 (例: 何かの申し出・要求・時間を伝える・指示・情報収集など) で英語が使用されているのかを理解できる 2. Listening Strategies (聞く技術): 英語を聞いて、必要な情報を聞き取る、話の要旨をつかむ、内容を推測する、アクセント・発音・時制などを正しく聞き分けることができる 3. Reading Strategies (読む技術): 英語を読んで、必要な情報を読み取る、さっと読んで意味をつかむ、話の要旨を見極める、内容を推測する、文章内の構造が理解できる 4. Vocabulary (語彙): 日常生活、嗜好、趣味、娯楽、旅行、健康、簡単な商取引などに関する単語や語句、及び文脈における意味を把握できる 5. Grammar (文法) 文法を理解し、用法も把握している 	
9. 受験時間	60分 (Listening 25分 Reading 35分)	
10. 受験者数	213,000人 (2011年度) 内訳: 団体特別受験制度 208,000人 公開テスト 5000人	
11. 受験料	4,200円 (税込)	
12. ウェブサイト	http://www.toEIC.or.jp/bridge/	
13. その他 (変化・特徴など)	テスト時間と問題数はTOEICの半分。TOEICよりも日常的で身近なコミュニケーション場面や素材をテスト問題に採用しており、リスニングセクションの出題スピードはTOEICより遅く、ネイティブスピーカー (英語を母国語とする人) が「注意深く」話す際のスピードに設定されている。	

* テスト時間と問題数がTOEICの半分であることから、受験者の心理的負担が少なく、中学生や高校生にも受験しやすいテストである。認知度の高いTOEICとのつながりを明示すれば中高生のモチベーションの高まりも期待でき、Bridgeの名前の通りTOEICへの橋渡しとして、学校現場でも上手く活用できそうである。(H.S. 2013.2.24現在)